

萱野茂先生と本学との交流について

著者	松名 隆
雑誌名	認知科学研究
巻	5
ページ	1-1
発行年	2007-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10258/225



萱野茂先生と本学との交流について

著者	松名 隆
雑誌名	認知科学研究
巻	5
ページ	1-1
発行年	2007-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10258/225

萱野茂先生と本学との交流について

松名 隆

萱野先生が本学を最初に訪れたのは、1998 年 10 月、本学の非常勤講師として「自然保護論」を担当しておられた前田菜穂子先生（のぼりべつクマ牧場・学芸員）の授業で、ゲストとして特別講義をしていただいたときです。筆者も学生諸君と一緒にその講義を拝聴させていただきましたが、初めて生のお声に接した先生のお話ぶりの、人を惹きつけ楽しませてくれる巧みさ、お話の合間にごく自然に挟み入れるアイヌ語の心地よい響きに、ただただ感心するばかりでした。

これをきっかけとして、筆者も、日高地方平取町二風谷の先生のご自宅にたびたび伺わせていただくようになり、そうしたなかで、平成 12 年度（2000 年）の先生との共同研究（客員教授）プロジェクトが実現しました。本学からは、筆者の他に、国際交流室の菅野助教授（当時、現在・高知大学教授）と門澤講師（当時、現在・助教授）が参加し、また田頭博昭学長（当時）には二風谷にもご同行いただくなど、本プロジェクトへの積極的なご支援をいただきました。

一年間のプロジェクトでしたが、そのなかで、二風谷を含む沙流川流域に継承されてきた伝統的アイヌ文化の具体的な様相について、幅広く先生から直接にお聞きすることができたばかりではなく、先生が監修・出演された、民族文化映像研究所制作による記録映画『チセアカラ』の上映会を本学で開催し、市民との交流も図られました。映画のあとの質疑応答では、萱野先生のアイヌ語をまじえた名調子の語りに、参加された方々もたいへん感銘を受けていた様子でした。

またこのプロジェクトの期間中に、偶然にものぼりべつクマ牧場で、アイヌの伝統家屋であるチセの建て替え工事があり、前述の前田菜穂子先生と萱野先生のご好意によって、本学からもたくさんの学生が、その工事に参加させていただくこととなり、貴重な体験をすることができました。

プロジェクト終了のあとも、先生と本学との交流は継続し、筆者も学生たちと一緒にチセでの宿泊体験をしたり、ゼミの学生たちや市民の方々とチプサンケ（舟おろし）の行事や、アイヌ料理講習会に参加させていただいたり、さらに交流は深まり、先生や奥様にはいつもお世話をおかけするばかりでした。

こうして萱野先生と本学とのつながりが、ますます発展しつつあったなかで、先生がポクナモシリ（冥土）に旅立たれたことは、本学としても大きな損失であります。筆者としては、これからも様々なかたちでの二風谷の方々との交流を通じて、先生からの学びをより深めていきながら、あらたな結びつきを構築していきたいと考えております。